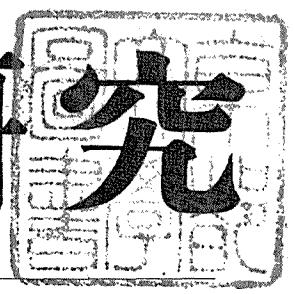


昭和二十四年六月一日運輸省特別投遞雜誌第四五三號
昭和二十八年三月二十日印刷 (每月一回發行)

哲 學 研 究



第三十六卷 第五册

第四百十五號

昭和二十八年三月二十五日發行

發生的見地より見たる空間
視知覺の問題

— 經驗効果の考察 —

..... 國原太郎

中觀哲學の論理形態

..... 梶山雄一

京 都 大 學 文 學 部 内
京 都 哲 學 會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために次の事業を行う
 - (一) 毎月一回研究會を開く
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 毎月一回「哲學研究」を發行する
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく、委員は京都大學哲學科教官及び委員會において推薦した者に委囑する
- 一、本會は會員組織とし、會員には資格の制限を設けない、學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することもできる
- 一、會員は會費として年八四〇圓、又は半年四二〇圓を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け、會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、本會規約の改正變更は委員會の決議による

京都哲學會役員

委員

山	矢	三	松	野	西	長	田	武	高	園	島	下	重	白	上	井	有
内	田	村	尾	田	谷	尾	中	内	田	原	芳	程	澤	井	野	島	賀
得	部		義	又	啓	雅	美	義	三	太	夫	勇	俊	二	照	鐵	太
立	達	勉	海	夫	治	人	知	範	郎	郎	吉	郎	郎	尙	夫	勉	郎

(Sahivālakāṣṭhī) を要求される。そしてこの正知性とは經驗が支持し得ることであり、人間の一切の效果的活動を可能ならしめること他ならぬ。 *saṃyajñānāpūrvikā śāstra* *puruṣārthasiddhīnti tadvyupādāte* (op. cit., 10), *pāpakaṣṭhī pamaṇam* (īka, p. 3, l. 17), *atlukriyāsamrtharāśastupradāśukān saṃyajñānam* (īka, p. 4, l. 1) (人間のすべての效果的活動は正知を先とする、それがこゝに考察せられる。」「經驗的な實事に」「到達せしめるものなる故に正知(慧)なり。」「效果的活動を可能にする實事を示すものが正知である。」「等の正知の規定がそれを示してゐる。

(註3) 清辨は經量部の緣起の解釋に對して「我々は、汝が眼と色とによりて眼識生ず、種子と緣とによりて芽生ずといふやうに認めてゐる」その生が不生の性 (*anupada-svabhāva*) なりとこそ説示することによつて、そこに不生等の特殊性を具せる緣起を認めてゐるのである」と語る。觀齊によれば (p. 65 a—68 a) 生の緣より滅あり、生の緣より斷あり乃至生の緣より一義あり、といふのは雜染の順觀であり、生なき故に滅なし、乃至生なき故に一義なし、といふ迄は清淨の逆觀であり、不生なるが故に不滅あり、乃至不生なるが故に不—義あり、といふのが清淨の順觀であるといふ。不生の故に不滅ありといふのを單に生なき故に滅なしと同一視せず、不生と不滅の間に清淨の因果關係を認めてゐる。不生不滅等の緣起といふ龍樹の立場は清淨の因果として積極的な意味を持つてをり、不生不滅のみではなくして緣起なのである。

(雜著 京都大學人文科學研究所「佛敎學」囑託)

前 號 目 次

サルトルのイマジナションについて……西村嘉彦

創造の原因、第四のもの(完)……………山本清幸

シェラーに於ける

「人格の情緒的存在構造」に就いて……深谷昭三

——orio anochi——

學界展望 美濃里の近狀 (井島 勉)

次 號 豫 告

コーヘレスにおける智慧……………有賀鐵太郎

中觀哲學の論理形態(完)……………梶山 雄一

會告

一、本會は會員組織と、OT 員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區田中西浦町弘文堂内京都哲學會係宛に規定の會費（年八四〇圓又は半年四二〇圓）をお拂込下さい

「振替口座京都一九五五六番 京都哲學會」

一、會費切れの場合は帶封に「前金切」の印を捺しますから直ちに御拂込下さい、一年分（又は半年分）會費は原則として本誌十二冊（又は六冊）の送附済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年（又は半年）毎に精算します

一、會員の轉居入退會等（編集事務以外的一切）の事務は弘文堂内京都哲學會係へ御通知下さい

一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛にお送り下さい

京都哲學會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和二十八年三月二十日印刷
昭和二十八年三月廿五日發行

編集人 京都大學文學部内

右代表者

三村勉

發行人 酒井明

印刷人 伊藤久春

印刷所 弘文堂印刷部

京都市田中西浦町四〇

發行所 株式會社 弘文堂

東京都千代田神田區河原町四ノ四

註文規定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告に關する件は「弘文堂」へ御申込下さい

一、本誌の御註文はすべて代金郵税共（一部、定價七十圓・郵税八圓）前金にてお送り下さい

一、特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券八圓をお送り下さい

